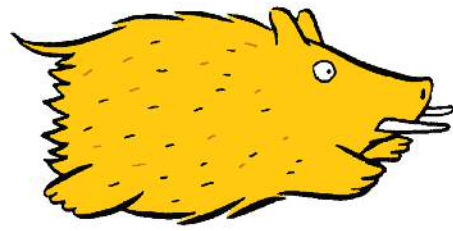




あな！トマソン隊じゃあ無いのか



入江町2編

by うさお

新子安にはいささか薄気味悪い教会があります。普通の家にこのような十字架を捧げた人型が立っています。妙に主売るです。あっ、違った。シュウルです。坂の下から車で上がってくると、判ってはいるんですがドキッとします。

そしてこの看板も何か意味がありそうで、ダビンチ・コードのようです。マッチの軸のような十字架、風前の灯のようなロウソク…。



さて、お正月に母は一宮さんにお参りに行きました。90歳を越す高齢ですが一人で行って来ました。健康であると言うことは有難いことです。その一宮さんですが、由緒のあるお宮さんであることは以前に述べました。門の右手に凱旋記念碑や戦没者慰霊碑があります。普通に亡くなった方は仏様に、戦争で亡く

なった方は、神様になるのかな。

そしてその脇になにやら小さなお社が……。更にその脇には長屋のようなお社が…。

さて？ここに祭られていたのは、
すさのう 素蓋鳴尊、ことしろぬし 事代主命、うけもちの 保食命、おもだるかしこね 面足惶根命、みずはやひめ 水速迺売命なので、その神様のためのアパートなのか？





それにこの封印された石碑は何だ。謎は謎を呼ぶぞ。

ともかくも本殿に二礼二拍一礼をして参道に掛かると、ここはごらん通りの急な坂道になっています。この参道の脇はお祭りの時などのご縁日には、夜店が立ち並んで相当の賑わいを見せます。

でも、年寄りには無理だね。私達やあ降りるだけだから、良いんだけどね。



色々な石碑や、これは何でしょう？富士山の浅間神社のミニチュアでしょうか。溶岩の固まりが置かれています。上から滝が落ちてくる仕掛けです。水は枯れていましたけどね。



この石碑は由緒のあるものかと思いましたが、どうやら昔の漁師さん達の祈願のものらしかったです。

子安の浜も生麦と同様に漁師町として栄えた所です。しかし昭和 30 年台にコンビナートの台頭と共に消えていきました。

今は釣り船屋さんが残るのみです。



その一宮さんの裏手に回ると大きな門構えの豪邸があり、何かこの地域にそぐわないので、不審に思った Cacco が塀中を覗き込んで写真を撮っちゃいました。神社さんの持ち物かと思いましたが違うようです。昔の網元さんでもあるのでしょうか。



これが内部です。Cacco は「廃墟だ！ 廃墟だ！」って言ってましたが、中で電灯が点いているってことは人が住んでいるってことじゃあ…。

このお宅、吉田長作さんってお家だったと思う。Internet で探ってみたがなんの記述もありませんでした。



この前の通りをほんの数歩歩くと、入江川の岸边に着きます。水位が高くて水が濁み昏い水の色をしています。怖いなあ。子供の頃からこの辺りを歩くと、江戸川乱歩の小説の世界、というよりはそこに描かれていた挿絵のおどろおどろしさを目の当たりに感じていました。



鉄橋の下を潜り抜けると、子安の浜。かつてはね。

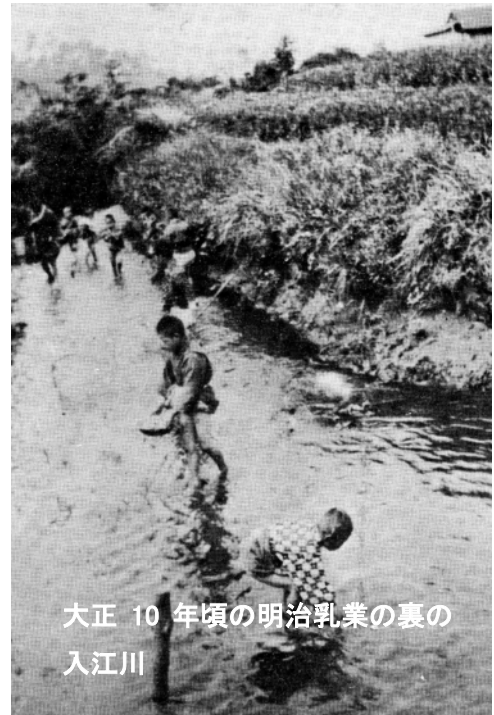
今は入江川運河に続く殺風景なところですよ。



でもこんな処にも江戸時代か明治の時代の道祖神的な石仏が並んでいます。時代を感じるなあ。



もう少し歩を進めて見ましょう。少し戻って入江川を渡ると、そこは明治乳業の配送所です。裏手はこんな感じ。



大正 10 年頃の明治乳業の裏の入江川

この辺りの川岸は、水の色や潮の匂いが如何にも海に近いことを教えてくれます。河岸と表記するほうが相応しいなあ。



くねくねと入り組んだ仕舞屋を通り抜けると、横浜線の暗渠が見えてきます。暗渠も小さいながらもトンネルです。良いんじゃないのって、想いを残しながら更に行くと大安寺に辿り着きます。



このお寺さんは漁師町にあつて、大いに栄えたようですが、東海道線や近在線の整備に伴い土地は切り取られ、お寺さんに行くアクセス道路も狭い昔ながらのものです。



写真は、大正10年のもの。まだ周辺は広々しています。現在は狭い敷地を工夫して数々の宿坊とか不動堂とかが建てられました。



大安寺さんのポスト

その中で目を引いたのが、これ、郵便ポストです。これ、見たことあります。由佳ちゃんちで。

プロパンガスのボンベの再利用で郵便ポストを……やはり地球の資源は限りのあるもの。お寺さんはやはり地球環境を深く考えているのかなあ。



由佳ちゃんちのポスト